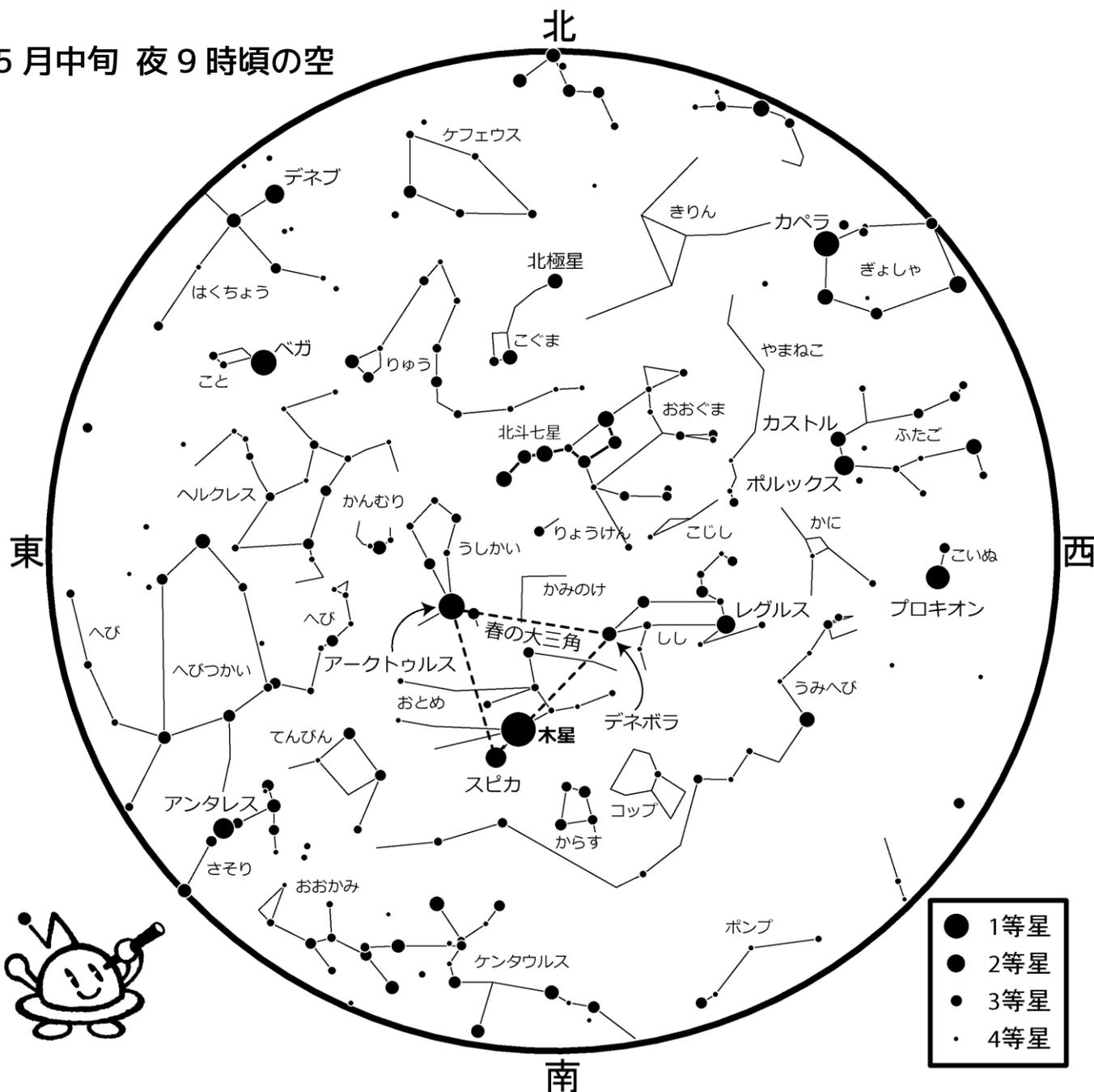


阿南市科学センター 5月の星空案内

5月中旬 夜9時頃の空

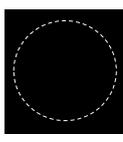


新緑の青葉が野山を彩る5月となりました。この時期の夜空には北斗七星(おおぐま座)が天頂近くに見え、アークトゥルス(うしかい座)、スピカ(おとめ座)、デネボラ(しし座)をつなげば春の大三角を描くことができます。このうちアークトゥルスはオレンジ色、スピカは青白く見え、日本ではこの二つの星を夫婦星(めおとぼし)とも呼んでいます。さらに春の星座の中にはからす座やかんむり座といった小さいながらも存在感のある星座もあります。中でもかんむり座は7倍程度の双眼鏡で観察すると、ちょうど視野の中で星が半円状に並ぶ姿を楽しむことができます。なお4月に引き続き木星が観察しやすくなっています。

天体観望会の予約・お問い合わせ先

阿南市科学センター 徳島県阿南市那賀川町上福井南川淵8-1 電話 0884-42-1600

◇ 月の満ち欠け

名 称	上弦の月	満月	下弦の月	新月
形 状				
見える日	5月3日	5月11日	5月19日	5月26日

◇ 惑星について

名 称	水 星	金 星	火 星	木 星	土 星
見どころ	夜明け前、東のごく低空で見える。	夜明け前、東の低空で見える。 (明けの明星)	日没後、西の低空で見える。	スピカ(おとめ座)の近くに位置する。観察好機。	深夜にへびつかい座で観察可能。
明るさ	約0等	約-4.5等	約1.5等	約-2等	約0等

◇ 今月のおすすめ天体 【木星】

太陽系最大の惑星である『木星』が観測好機となっています。木星は地球の約11倍もの大きさがあり、体積の大部分は水素ガスで構成されている惑星です。この天体を望遠鏡で観察すると、表面の縞模様をはじめ、**大赤斑**と呼ばれる巨大な斑点を見ることができます。大赤斑は17世紀にフランスの天文学者カッシーニによって発見され、18世紀には約5万kmものサイズ(地球4個ぶん)で観測されていました。しかし大赤斑は年々縮小しているようで、最新の観測では約1万6千kmまで小さくなっているようです。

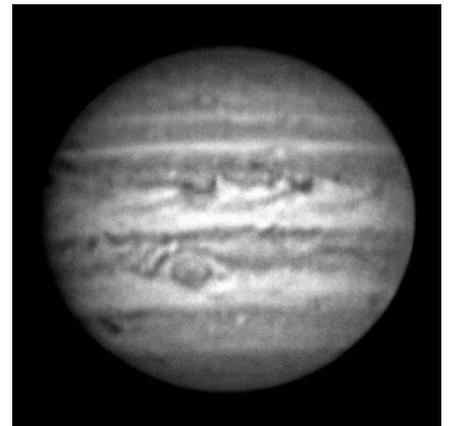


図1: 木星(2017/04/29 撮影)

◇ 今月の天文現象 【ジョンソン彗星】

2017年5月~6月にかけて、ジョンソン彗星(C/2015 V2)がみやすくなっています。この彗星は2015年11月3日にアリゾナ大学が運営するカタリーナ・スカイ・サーベイ(口径68cmのシュミット望遠鏡)によって発見された彗星です。予報通りであれば極大期は約6~7等という明るさで観察でき、双眼鏡レベルで確認することができるかもしれません。なお5月は概ねヘルクレス座からうしかい座のあたりに位置し、ほぼ一晩中観察することができるでしょう。日によって彗星の位置は変化するため、観察のさいは右の星図(図2)を参考にしてください。

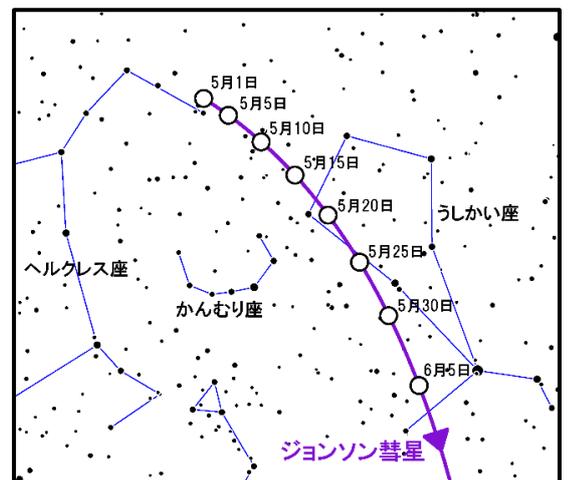


図2: ジョンソン彗星の動き(2017年)